

やまなし自然首都圏構想研究会
第7回自然首都圏構想推進部会 議事録

日時：令和3年12月23日（木）11:00～12:00

場所：山梨県東京事務所会議室（テレビ会議）

◆出席者：長崎 幸太郎 山梨県知事

【ゲスト】

中村 和男 シミックホールディングス（株） 代表取締役CEO
[二拠点居住推進部会 委員]

【座長】

東 博暢 （株）日本総合研究所 主席研究員

【委員】※50音順

清水 喜彦 SMBC日興証券（株） 顧問

中村 成志 SOMPOホールディングス（株）
シニアマーケット事業部スマートコミュニティ室
特命部長兼室長

野村 明弘 （株）東洋経済新報社 解説部長

山崎 豪敏 （株）東洋経済新報社 常務取締役執行役員 編集局長

【事務局】

リニア未来創造局 局長、リニア未来創造・推進課長
観光文化部 文化振興・文化財課長

- ◆会議次第：1 開会
2 知事挨拶
3 議事
○文化芸術による地域活性化②
4 閉会

[知事挨拶]

長崎知事

- ・本日は大変暮れのご多忙のところ、第7回自然首都圏構想推進部会にご出席賜りまして誠にありがとうございます。
- ・今日のテーマは、文化芸術による地域活性化の第2弾。
- ・前は富士五湖方面でご活躍をされておられる、田坂広志山梨県顧問からお話を伺ったところだが、本日は、北杜市方面で活躍されているシミックホールディングスの中村CEOにご参加をいただき、お話を伺いたいと思う。
- ・前回、今回のご議論をしっかりと受けとめて、近日中に文化立県を目指す考え方を取りまとめていきたいと考えている。
- ・今日は中村CEOのお話を大変楽しみにしている。

[議事]

(中村CEOからの講演、意見交換)

[講演]

中村CEO

- ・アートによる地域活性化の取り組みということで、私が考えていること、やっていることについて、お話申したい。
- ・まず、アートと言っても、それぞれの思いが違う。絵を思い浮かべる人もいれば、音楽を思い浮かべる人もいれば、バレエを思い浮かべる人もいる。アートということの中で、わかりやすく言うと、本当はアート思考ということもあって、0から1の世界、クリエイティビティ、それからオリジナリティということもあるし、更に、アートの持つ力が大変世界の超富裕層を動かしているという観点もあって、どちらかという、そちらの方の観点でお話をしたいと思っており、皆さんとずれるかもしれないが、ご容赦お願いしたい。
- ・私の経歴としては、サイエンスをやってきたが、アートが好きだということで、京大の中の思修館という5年制の大学の中で、アート&サイエンスという部分で、授業を持たしていただいたり、縄文サイエンス&アートという団体を作り、その理事長をさせていただいている。縄文文化を世界遺産にということで動いて、山梨県もくっつけようと思ったが、それはあまりうまくいかなかった。
- ・まず、北杜市のことから、お話を申し上げたい。北杜市は、大変広い面積を示しながら、八ヶ岳の裾野にあって、本当に3,000メートル級に囲まれていて海に近いという、非常に世界では珍しい場所。ほとんど内陸部に3,000メートル級の山があるが、海に近くて3,000メートル級の山があるというのは、あるようでないところ。もう一つは、冬になると雪が積もるといこと。

- ・水と緑と太陽のまちを象徴することとして、ミネラルウォーター生産量日本一、日照時間日本一、国蝶のオオムラサキ日本一があり、それに付け加えて、文化ということでは、縄文文化がある。これは、大変誇ってもいいと思っていて、国宝の2体がこの八ヶ岳の山麓から出ている。
- ・もう一つは、信玄の軍用道路。これは約500年前に整備されたものだが、単なる軍用道路ではなくて、ここに狼煙台がついている。通信ハイウェイがあったということ。この軍用道路によって、今で言えば通信ハイウェイを作るとともに、素早く物を動かせるシステムを作った。これは素晴らしいもので、美しい日本の歩きたくなるみち500選にも選ばれている。
- ・それから、先ほどお話したように、縄文のヴィーナスと仮面の女神という、国宝2体が出ている。これ実は山梨県ではなくて長野県の茅野市だが、八ヶ岳山麓というとらえ方をしないと、文化等はとらえられなくて、我々は、八ヶ岳山麓ということでもとらえて、国宝が出ているということで誇りにしている。
- ・我々の活動の中で本当に大事なものは、3,000メートル級の富士山が見えたり、ナンバーツーの北岳が見えたり、信玄の棒道があったりということの中で、アート&ウェルネスという観点でものをとらえている。アートだけではなくてウェルネス、最終的な生きがいというようなテーマで取組をしている。
- ・我々がやっていることの中には、ゴルフ場もあるし、ホテルもあるし、ロッジもあるし、乗馬をやるところがあったり、テニスコートがあったり、フットサル場があったり、フィッシングエリアがあったりするが、基本は、体験とか感性で感じるということを大事にしている。
- ・その中の一つとして、美術館がある。アートといえば典型的な美術だが、この美術館は、キース・ヘリングだけの世界で唯一の美術館ということで、結構、富裕層にも刺さっている。
- ・そして、もう一つは、6室しかないホテル。これも実は美術館と同じで、大変ユニークなところ。今、富裕層は、500室のホテルには絶対泊まらない。非常に小さなホテルであったり、特殊なものということに対して非常に刺さるということで、我々のホテルも6室しかなくて、しかもアートのなもので作っている。
- ・中村キース・ヘリング美術館に関して言えば、美術館のコレクションが、今、イタリアのピサに行っている。ピサで展覧会を開催していて、美術館そのものが海外にも出て、そのまま展示になるという、国際的な形で展開ができています。
- ・主な取り組みについて、今までやってきたものの中で、「国際」絵画コンクールがある。13年間やってきて、これは海外からの子供たちの作品もあって、およそ7,000~8,000の作品から選んでいる。ワークショップをやったりということで、子供をキーワードにしているが、一番大事にしているのが、国際の絵画コンクールであるということ。審査員も国際的な人を入れている。そして、発信したものは、できれば各国を回るような動

- きをしている。いろいろな形の国際絵画コンクールがあるが、継続してやっている例は非常に少ない。21年度の審査員には、長崎知事も入っていただいているが、例えば、パトリシア・フィールドという世界的な有名なスタイリストもいる。ハリウッド映画の衣装を担当したり、今でも活躍している。こういう方がアメリカから入ったりしている。
- ・それから、サマーアートキャンプとって、香港の子供たちをサマーキャンプで連れてきて、一つは、アート作品を作ってもら。それから、その間では、いろいろな遊びをしてもら。この中で面白いのは、アートキャンプをやると、お母さんたちが、わざわざ品川からタクシーで来る。何か買い物を忘れたら、東京まで行ってすごいワインを買ってくるという、本当に富裕層の動きは、ある面では距離感ではないなという感じを受けている。
 - ・更に新たな取り組みとして、今年、長崎知事にもご援助いただいて、第1回目のクリエイターズキャンプをやった。これはイベントではなく、クリエイターが集まって、その中で作品を作るという動き。日本の中では、クリエイターズキャンプの本格的なものはやっていない。これを世界に発信しながらやろうということで開催した。
 - ・第一線で活躍している作詞家、作曲家、歌手、演奏家、音楽のプロデューサーを入れて、開催した。
 - ・ここでは、デリバラブル（成果物）をちゃんと作っている。3泊4日程度の期間で、デリバラブル（成果物）は、自分たちの曲も作るけれど、我々の会社のテーマソングを作っていたり、山梨県には子守歌を作っていたり、今回支援していただいたサンロードさんについては、サンロードさんの歌を提供したりとか、企業の参加と企業の支援を得ながら、その企業に対しても返してあげるという動きをすることによって、資金的な面でも楽になるし、今後大きく広がれば、地域活性化につながったり、大変有名な人が来るということにもつながると思う。残念ながら、今年はコロナがあったために、ひっそりにはなったが、開催はさせていただいた。
 - ・もう一つは、馬のまちであるから、馬というものを使って、リーダーシップ研修、企業の研修なんかもやっている。創造性ということで、文化というもの、アートというものを、いろいろな動きと一緒にやってやるというやり方をしている。
 - ・そして縄文サイエンス&アートということで、縄文とキース・ヘリングのコラボレーションをやったり、縄文イベントの中で野焼きを行いながら縄文の土を使って子供たちに焼いていただいて、縄文というものを認識してもらおうということも開催している。
 - ・続いて、HOKUTO ART PROGRAM ということで、清春芸術村の吉井仁実さんも含めて、北杜市の市内の美術館が共同で開催した。中村キース・ヘリング美術館、清春芸術村や平山郁夫シルクロード美術館が入って、アートプログラムを実施した。
 - ・アートに対する考え方として、最終的にはアートは鑑賞するだけじゃない。自身がアートと関わる、体験することが大事。ここをどうやって持っていけるか。アートのイベントで終わりじゃなくて、体験すること。アートを小淵沢の地に持ってくることによって、

小学生、幼児の段階からアートに親しんでいるので、かなり感覚的には面白い人ができると思う。これが大事。

- ・ 絵画だけがアートじゃなくて、映像、音楽、建築もあるし、いろいろな形でアートがあっという間と思う。
- ・ それからアートで大事なのは、クリエイティビティ、独自性、ユニーク性があるのかどうか。
- ・ 更に重要なことは、地域を活性化すると同時に、いかに世界に発信するか。最初から世界発信ということを考えながらやるということ。
- ・ アートにおける地域活性化のためのポイントとして、地域に根づいているか、地域の文化度を上げるための施策ができていくということが大事。単なる観光ではなくて、体験、体感、アクティビティが大事であって、アーティストがいることも必要だし、アートをそれなりに語れる人たちも必要だし、地域にそういうものがないと無理だと思う。
- ・ それから、アーティスト、クリエイターの個性、感性を最大限に引き出せるような創作活動の場であるということも大事で、ただ単に作品を持ってきて、小淵沢でやるということではなくて、創作活動の場であるということ。従来の音楽フェス、例えばロックフェスの場合、やって終わりというようなことになるが、そうではなくて、成果物が出るということが大事。
- ・ それからもう一つは継続性。一遍で終わっちゃ駄目なので、継続性を持って取り組んでいくということが大事。
- ・ 今後の取り組みについてのご提案に関連して、第1回のクリエイターズキャンプについて、山梨県も大変協力していただいて、新宿からバスを出してくれただけで、本当にクリエイターは助かった。クリエイターは自分の楽器を持って、そのバスに乗って、小淵沢に来て宿泊するという形で行った。次回は、来年の8月を予定しており、このクリエイターズキャンプへぜひご支援をしていただきたいと思う。同時に、コロナがある程度コントロールされたら、作品を作ってる段階から世界に発信をしていき、最後に終わった段階で、その作品を発表するようなイベントにしたい。
- ・ それから第14回の国際絵画コンクールは、来年の10月に開催するが、コロナが収束していれば、世界から何人か集まっていたらいいと思う。
- ・ また、ちょっと違った視点から提案したいのが、ロケ地の誘致。山梨県には、ものすごく素晴らしい自然があって、馬もいて、過去にはロケをしたこともあると思う。残念ながら、知事さんに話をしても、なかなか進まない。テレビ局もやりたいと言ってるし、ロケを持ってきたら大変素晴らしくて、映像という形も一つのアートだと思う。これができる素晴らしいエリアなのに、できないという理由がわからない。これは各地域の取り合いになる。世界に発信できるものだから、ちゃんときちっとやるべきではないか。
- ・ 次に、これはまた面白いと思うのが、カウボーイのような形で、私も含め馬乗りが、インディアン格好をして、かつて小海線の襲撃ごっこをしていた。この襲撃ごっこが有

名になって、小海線の車内でアナウンスが流れて、そろそろ襲撃されますよということで、電車も遅くして、みんなが楽しんでた。これを私は、私の仲間も含め、もう1回再開しようと思っている。これは小海線の中で話をつけてくれれば、日曜日の午後の何便には襲撃しますよということでイベントを出すと、世界に発信できる。馬乗りもメイクしたり、大変だが、このこと自体が強い発信力を持つものになる。こういうことをやれたらいいなと思っている。

- ・山梨県の歴史・文化・芸術資源を生かした、他の地域では真似できない地域ブランディングのために努力することを提案した。こういうものは、結構超富裕層に刺さるし、世界発信した時の絵面がいい。
- ・そして、やってることの中にちゃんとソフトウェアがある、コンテンツがある、人がいるということが一番大事。

[意見交換]

長崎知事

- ・世界発信という観点から見たときに、縄文というのはどれぐらいの価値を持つのか。

中村CEO

- ・縄文は、実はフランスが一番、理解している。
- ・フランスの中では、縄文を見つけたのはフランス人と言ってもいいぐらいで、岡本太郎もそうだが、まだ十二分に発信されていない。アフリカンアートになってしまっている。
- ・縄文が世界遺産になって、東北と北海道は縄文のツアーを作ったり、イベントをやったりしているが、縄文文化は日本全体にあって、しかも山梨県のこの八ヶ岳は「縄文銀座」だと言われている。これに関連した資源は素晴らしいものがある。
- ・ただ、遺跡がすごくあるわけではないし、チャチな縄文居住地を作ってしまったということもあり、歴史的には間違いもある。
- ・従って、サイエンスとアートという部分で見直すことが重要。サイエンスの部分は遺伝子解析等で分かっていることがあるし、アートという面で見ると、こんなクリエイティブなところはない。それをあえて面白くする。
- ・八ヶ岳には縄文文化というものが1万年前～1万5千年前にかけて、約5,000年存在していて、そのかけらや土偶があって、そういったアーティスティックなものが非常に大事。
- ・しかし、ご承知のように、土偶のかけらが出すぎちゃって、各自治体が持ちすぎちゃってる状況になってしまっているが、アートという視点と、サイエンスという視点の2つで見えていくことが重要。
- ・今、北海道とかは盛り上がっているところだが、世界の中で、縄文ツアーというのも当然出てくると思う。大変ユニークなところなので、それを1回ひもといて、出さなきゃ

いけない。出す時の仕組みをどうするか。その時に、きちんとしたサイエンスで見る部分と、もう一つは、アートの部分で見ていくのが重要。

長崎知事

- ・それは現代においても、創作活動につながり得るようなものか。

中村CEO

- ・ものすごくつながる。縄文時代と今の人、例えば長崎知事とつながっているかどうかはわからないけれども、遺伝子の中には入ってる。
- ・縄文の中の創造性というものは、アフリカンアートと似ている。これはものすごいエネルギー。縄文のエネルギー、アートは、基本的には日本の持つアートのエネルギーのすごさであって、岡本太郎が感激してる。そこはフランス人も分かっている。
- ・私が一番いいと思うのは、縄文のプリミティブさ。そこが非常にキース・ヘリングに似ていて、それだからキース・ヘリングとコラボしている
- ・縄文を、文化財とか、そういう部分で見るとじゃなくて、アートのもので見直したときに、ものすごく面白い。

長崎知事

- ・例えば若手のアーティストに、これを一つのテーマにしながら、新たな創作をする場を提供するということもありうる。

中村CEO

- ・ありうるし、もうやっている。
- ・我々も、北海道でやっていたように、縄文太鼓であったり、縄文のイベントであったり、縄文の劇であったりといったことをしている。
- ・ただ残念ながら、世界遺産に入れるべきだったが、入れられなかった。ここが一番大きい問題。

東座長

- ・知事にアーティストの方をお連れしたことがあるが、実はそのアーティストも、コロナ禍にあって、縄文文化をベースに曲を作っていたら。
- ・フランスもそうだが、大英博物館で縄文を取り上げたり、イギリスでもかなり評価が高い。
- ・そこに注目して、ラグジュアリーツーリズムのようなものを展開しようという動きもあり、ラグジュアリーツーリズム議連がちょうど立ち上がって、先ほど中村CEOからお話のあったように、何百室のホテルではなくて、それをより地方で、ある種の聖地のよ

うなところで、富裕層を呼ぼうというような動きが出てきている。ただ、ラグジュアリーツーリズム自体を日本政府自体が理解していない可能性があり、もともと清水委員のところにはらっしゃった、経済産業省の吉川ゆうみ政務官がラグジュアリーツーリズム議連を立ち上げて、一緒にどンドンと地方で推進していこうという動きもちょうどあって、まさに中村CEOがおっしゃった通りの動きを山梨から仕掛けるのは、とてもタイミングがいいと思う。

- ・おっしゃる通り、日本の地方に行くと、縄文土器がどこでも骨董品で買えるということ自体もおかしいとは思いますが。

中村CEO

- ・同感

東座長

- ・海外であれば、アートであり資産として見てるのが、日本では、買ったときに消費税がかかったりする。消費財のような扱いになっていて、コレクターはまず来ないという話をよくしている。消費財じゃなくて、ちゃんと資産価値のあるもので、ずっと継承していくものだという概念すらそもそもあまり日本のコレクターにはなかったりする。

中村CEO

- ・縄文は山梨が縄文銀座だということを、もう1回出すといい。中央自動車道を建設した際に、たくさん出ているから、そこを大事にする。

清水委員

- ・アートは中村CEOにおまかせずるとして、実は海外のお金持ちたちは、明快に、縄文が弥生よりも昔の駄目な文化だという発想は持っていない。弥生と縄文は、全く違う文化だという発想に立っている。特にパワフルさにおいては、先ほどアフリカンアートという話もあったが、それと匹敵するぐらいのパワフルなものだという感覚になっていて、例えば、ロックフェラーも集めている。
- ・ところが日本に来ると、この汚い土塊は何？、という発想になってしまう。
- ・地域活性化という意味で、アートとしての素晴らしさを訴求するとしたら、山梨だけではなく、隣の長野も一緒にしないといけない。諏訪は、アートではなくて、歴史の問題だが、縄文文化の最後の砦だった。三内丸山遺跡等に代表されるような縄文初期から、弥生文化に押し込まれていって最終的に残った地域が、諏訪から蓼科、八ヶ岳。
- ・要するに農耕・稲作民族である弥生に、狩猟・採集民族だった縄文が追いやられていって、最後に残ったのが諏訪の地、八ヶ岳のふもとから蓼科や諏訪にかけての地域。これは歴史的に見えていること。三内丸山遺跡だけが縄文ではない。弥生文化との融合や時

代の変遷という観点で、歴史的にもものすごく価値のあるエリア。そのことが、残念ながら中央政府には十分理解されていない。

- ・諏訪について言えば、御柱祭り等、日本でも独特の祭りがある。成り立ちは違うが、富士吉田の火祭りもあるし、弥生ではなくて縄文の流れを引いたお祭り、文化芸能がものすごくたくさん残っている。
- ・前からお話している通り、地域振興を観光という観点で考えるとしたら、リピーターでないと絶対駄目。周遊してもらうこと、何泊かしてもらうこと、レポートしてもらうことが重要。
- ・例えば、山梨県立美術館についても、ミレーのいい絵があるが、よほど好きな人なら何回も足を運んでくれると思うが、そうでなければ、1回行ったら何となく満足しちゃう。そこにもうちょっと付帯できる、自分でも経験できるものがあると、もう一回来ようという気になる。
- ・観光の要点は、東座長には釈迦に説法かと思うが、2点であって、留まってもらう。そこに泊まって、留まってもらうこと。そして、レポートしてもらうこと。例えばルーブル美術館や大英博物館は1日では見切れないから、何日か留まって見る。地域にお金が落ちる。
- ・ハケ岳は、中村CEOの言うように、乗馬もできれば、釣りもできれば、ゴルフもできるということで、リッチマンたちが1週間単位で、それを楽しんでもらえば、お金が落ちると思う。バックパッカーで、素通りしていく観光客が幾らいても、お金が地元には落ちない。お金が落ちないと、職ができない。
- ・そういう意味では、中村CEOがおっしゃるように、アート中心でもよいと思う。アート中心にする事の利点は、見るだけでなく、自分でもできること。特に子供が来てくれれば、親は必ず来る。

中村CEO

- ・もう一つ大事なのは、とにかくクリエイターがキー。若い人でも、大企業に入らなくて、ものすごく優秀な人がスピンアウトして、クリエイターとしていろいろなネットワークを組みながら活動するということがある。
- ・非常に危険なのは、大きいエージェントに任さないこと。だからこそ、私は自分でやってる。単なるイベントで終わっちゃう可能性がある。
- ・前と後が大事で、デリバラブル（成果物）をどうするかが、非常に大事。そういう面では、クリエイターズキャンプは、皆さんが支援してくれれば、めちゃ面白い。若いクリエイターで、あまりお金がなくて、創作活動で困ってる人が集まってきて、ここでやれば、住みたいという人が出てくる、これが大事。

清水委員

- ・それを子供たちにさせたら、次につながる動きも出てくるし、親もまた支援してくれる。

中村CEO

- ・先日、山梨県から子守歌が欲しいという話があり、それを作った。ちゃんとクリエイターたちが作った曲で、素晴らしい。ただ単なるイベントではなくて、3日間生活しながら曲を作って、自分たちで自炊するという形で、この絵面が世界に出ていくかもしれない。

清水委員

- ・県内にもボーイスカウトとかロータリーとかいろいろあると思うし、それらとのコラボも一つの発信ではあると思っている。

中村CEO

- ・一つ一番いいのは子供たちのサマーキャンプ。
- ・世界のお父さんお母さんは、夏、子供をどこに行かせるかということで、一番困っている。そこで、異質の日本に来て、子供をサマーキャンプに置いておいて、自分も好きなところに行くという手がある。サマーキャンプという面では、山梨は安全だし、ものすごく都合がいい。変な形で東京で遊びを覚えて帰るよりも、ここに来てくれた方がいい。
- ・ただ、この時の一番の問題は入口出口の問題。はっきり言って、日本を一つと見ているので、どこで入ってどこで出るか、どこで体験させるか。山梨だけなんて絶対駄目。山梨だけでなく、例えば、最後に京都に行って京都の文化を見て、それで出ていくというような発想。
- ・入口出口をちゃんと押さえないと駄目なのと、富裕層は面倒くさがりなので、パッケージではないけれど、全部やってくれる人が必要。今、富裕層のアクセスが一番いいのは日本ではなくて、海外の富裕層に対応できる窓口。これがもう、一番やりやすい。具体的にどこだというのは難しいが。私も知っているのがあるが、そこにアクセスして、300から400万円とかでアレンジしていく。
- ・加えて、今回はワインの話はしなかったけれども、やはりワインという文化がめちゃくちゃいい。ワイン、日本酒、ものすごくいい。

山崎委員

- ・今おっしゃられたことが非常に刺さる。アーティストがやっぱり鍵になる。クリエイターが鍵になる。その時にはやはり移住させなければいけないという話があったと思うが、彼らが本当に移住するための条件、彼らがここに住みたい、ここから世界に発信していきたいと思うためには、どういう条件が必要か。

中村CEO

- ・一番は、世界から見たときに、その絵面が面白いこと。その絵面は、自然の中で、ゆったりしながら、普通の中でやってるような感じ。豪華な部屋とかではなくて、山が見える、自然が見えるような感じが大事。
- ・大事なのは、まちづくりもそうだが、同じようなビルがたくさん建っているような状況には、全然興味を示さない。そこを歩いたら、つぶれそうな小屋があったとか、電柱がたくさんあったとか、そういうようなところを歩きながら、自分も歌を歌いながらとか、どこを取っても絵面がいいというのが大事。
- ・同じホテルのようなところで、ガチッとやったら絶対駄目。だから、今回、いくつか分散させながら、好きなところを選べるようにした。好きなところを選んでやってくださいという形。これがたくさんになれば、もっと好きなところ、例えば、民家でもいいし、小学校の跡地でもいい。
- ・そのときに、我々としては、ちゃんと食事等は用意しておいてあげて、好きにしてもらうということ。それぞれがそれぞれ個性があるので、そういうところをちゃんと出していけるように、あまり介入しないことが大事。

山崎委員

- ・生活のための費用、コストは、支援してあげるというようなイメージか。

中村CEO

- ・非日常を与えてあげるとのこと。それは、ものすごくリラックスできる場所。若いクリエイターはお金もないが、非常にクリエイティビティがあって、夜中でもやりたいとか、音を出したいとか、みんなで議論したいといったようなことがある。そういう場を、一つではなくて、いくつか作ってあげること。できれば、小さなまち全体でそれをやれるとよい。
- ・クリエイターズキャンプのような取組みについて、昔の例を出せば、例えばクイーンやビートルズが、音楽に行き詰まったときに、本当の普通の田舎町に行って活動している。これが大事。これは、必ず都会のスタジオではなくて、それから離れたところに行くのが大事。スタジオは関係ない。

清水委員

- ・アーティストに関しては、中村CEOにお任せするとして、逆に、自治体としては、集めた人を核にして、一般の人を集めないと、お金が落ちない。そこをどうつなぐかを、県の皆さんがしっかりとストーリーを書いてもらわないと、せっかく中村CEOが集めてもらっても、無駄になってしまう。

中村CEO

- ・その絵は、私が描こうと思っている。

長崎知事

- ・ありがとうございます。

中村CEO

- ・どんどん人数が集まってくるし、実は、超有名な歌手が、実は自分の事務所を離れてそういうことをしたがつている。実際、私のところには、有名な人も来ているし、そして、最後にはイベントで、発表の場でもってみんなが来てくれてやるというのがいい。

清水委員

- ・実は、札幌・函館のイベントをちょっとお手伝いしたことがあるが、ホテルがなくて大騒ぎになった。そのあたりは、自治体もちゃんと、最終形を中村CEOと相談して描いた上で、準備しておく必要がある。

中村CEO

- ・大事なものは、最初から大規模でやっては駄目。あまり大規模でやるとクリエイターは面白くなくなっちゃう。

清水委員

- ・準備ができないところでやってもしょうがない。小さい規模からやっていって、5年後にはこのぐらいのキャパになるというのを想定して、それがちゃんとできるように、その5年間の間に準備だけはしておかないといけない。

中村CEO

- ・一番いいのは、県有林がある。

清水委員

- ・つまり、自治体がしっかりやらなきゃいけない。

中村CEO

- ・県有林をちゃんと使おうよということ。ロケ地という意味では、テレビ局も県有林の活用に向けて交渉したがつている。例えば今、フジロックもどこに行ったらいいのか迷ってる。

東座長

- ・ 同感。

中村CEO

- ・ フジロックを持ってくればいいという発想もないわけではないが、それは大変なこと。しかし、やっぱクリエイターズキャンプは面白い。

東座長

- ・ 私も結構いろいろアーティストやクリエイターとやりとりをしているが、商業用音楽と、自分がやりたい音楽が違ってきている。個人が地方に行って、作曲するというようなことは結構あって、そういう人たちが集まる場所を探しているというのはある。

中村CEO

- ・ クリエイターを集めてみると、曲作りがすごい速い。1日5曲とか、バンバン作る。それを絵面を出してあげると、なおのこと引きつけると思う。そうすると、あそこで作ったんだねって話になる。例えば、カルロス・Kという、地元小淵沢から生まれた作曲家がいて、彼は若くて才能もある。
- ・ もう一つは、若い海外のクリエイターを入れてあげればいい。入れてあげる時に、もうZoom でつないでもいいし、来てくれたら最高。そうやって交流していくとすごく面白いし、こういうところに、意外と、変な話、超ビッグの大物の歌手とかがくる可能税が絶対ある。ここまで行ったらもう勝負ありだと思ふ。

東座長

- ・ そういったワールドワイドのトップティアのアーティストは、日本人も含めて、もうほぼロコミで呼べるレベル。

中村CEO

- ・ エージェントを入れるのではなくて、やはり個人レベルでできるもの。
- ・ そこで、作詞家とか作曲家じゃなくて、クリエイターという切り口にすることが大事。クリエイターという切り口にすれば、何でもクリエイターになる。
- ・ 先日クリエイターズキャンプをやったときに、バスを山梨県で出してくれたのはものすごくありがたかった。
- ・ ある種のお世話係みたいなもの、ボランティアのようなものがあるといいのかもしれない。

長崎知事

- ・今度、県庁内に、お世話をする係を作ろうとっていて、クリエイターズキャンプをはじめ、いろいろなクリエイティブな活動を窓口になってサポートするようにしたい。

中村CEO

- ・長崎知事がおっしゃったように、縄文はめっちゃくちゃクリエイティブで、縄文ができた場所は、めっちゃクリエイティブ。
- ・私は、北海道のニセコに注目しているが、やはり文化がなくて、文化を作ろうと思っても、つらいものがある。
- ・山梨県については、清水委員からもお話があったように、諏訪も含めたらめっちゃいい。昔からのクリエイティブティがあるところ。そこを使うときには、ストーリー性が必要なので、一発クリエイターを集めるだけではなくて、ここがいかにもクリエイティブティのある場所かということ発信しないと駄目。

野村委員

- ・国の方では岸田政権になって、デジタル田園都市国家構想が持ち上がり、具体的なことはこれからだと思うが、今のような面白い話で山梨県の方から発信したりとか、或いは国に対して要望したりとか、そういった面はいかがか。

中村CEO

- ・国ではなくて、山梨県でやればいい。国は後からついてくる。
- ・失礼な言い方かもしれないが、国に話をすると制約を受けるので、国を飛ばして世界を考えればいい。どこかとくっつけばいいし、そういうことを発信すると、クリエイターが、面白がってくれて、どんどん一緒になってくれる人もいる。
- ・例えば、清水委員もお好きだと思うが、信玄公祭りも棒道を歩かせたっていい。

長崎知事

- ・それも面白い。

清水委員

- ・賛成。なんでやらないのかと思っている。

長崎知事

- ・今回は観光文化部も会議に同席しているし、承知した。

中村CEO

- ・狼煙台をつけるのもいい。

清水委員

- ・全員が走る必要はなくて、馬がちゃんと乗れる人だけが走ればいい。

中村CEO

- ・実際、史実は甲府に集まるのではなくて、段々と集まってきて、それぞれ隊が作られるのではないかな。

清水委員

- ・おっしゃるとおり。寄親のところに寄子が集まって、それが躑躅が崎に集まる。

中村CEO

- ・それでまた軍団が歩き出したらそこに集まってくるということで、そういう史実もやればいい。

長崎知事

- ・承知した。小海線の襲撃も、騎馬軍団に襲わせるという手もある。

中村CEO

- ・小海線については、JRに話をしてもらって、JRがOKならば、我々のボランティアがやる。一つの便でいい。要するに、何時何分にはこういうイベントやりますということにしてくれればいい。あまり過激な鉄砲は持たせないで。

長崎知事

- ・信玄公祭りのときに、棒道に加えて、小海線を襲わせるというのもありうる。

中村CEO

- ・これはものすごく面白い。かつて、マウイ島ではシュガーケートレインが運行されていて、今はなくなってしまったが、それで世界から観光客が集まってきていた。
- ・小海線も、日曜日の午後の一つの便をちょっと古い仕立てにして、そこを馬が伴走するだけでもいい。

長崎知事

- ・承知した。これは面白い。

中村CEO

- ・ もう一つはロケの誘致。

長崎知事

- ・ 承知した。

中村委員

- ・ 先ほどの縄文の話で、もし動きがあれば教えていただきたい。山梨県だけに限らず、八ヶ岳南麓全体でというお話があったと思うが、広さ、深さ、歴史を語るときに、県で閉じるというよりは、広く連携することで、その広さ、歴史を使ってアピールをより深くできるようになるのではないかと思うが、広域の連携といったところで、現状どのようなあり方が行われているか、もしあれば教えていただきたい。

中村CEO

- ・ 世界遺産の関係では、札幌、北海道がリードして、アイヌの文化を入れたりして、全国で結びたくて、かなり力を入れたが、いろいろな問題があって、北海道・東北ということになった。
- ・ 向こうは既に、縄文を観光ルートにしたりとか、いろいろやっている。したがって、これからは、もちろん広域という視点もあるが、山梨としてどれだけ主張するかということが重要。縄文ということで、世界をまわっているような人がいるので、そういう人に山梨にも寄ってもらうこと。
- ・ 一番いいのは、国宝級のものが2つそろっているのは、八ヶ岳のこの近くしかないということ。

長崎知事

- ・ 今そういうお話をいただいて、長野県と連動して、少し今のその動きを追いかけてみたいと思う。ちょうど長野県との連携のネタを探していたところで、長野との関係の一つのテーマにもなろうかと思う。

中村CEO

- ・ もう一つは、片倉製糸の絹。これは日本版シルクロード。甲州商人が諏訪の片倉製糸と富岡製糸の絹に目をつけて、横浜港から輸出した。諏訪には、スイスのイメージで精密工学の精工舎を作ったというのもある。明治の産業振興という視点で言えば、諏訪、山梨、甲州財閥といったルートがものすごく大事。これがあって、八王子から横浜に持って行って、甲州財閥も財を成した。シルクをキーワードに、一つの道ができていて、その流れの中には、世界遺産になった群馬県の富岡製糸場もある。そういう意味で、長野、

特に諏訪の辺りは結構近い。それからあと一つ、財閥という意味では、甲州財閥の中でも、諏訪からも出ている。

長崎知事

- ・承知した。

清水委員

- ・長野県全体を北信、東信、中信、南信と分けたときに、山梨と一番深い、中信の諏訪を中心にターゲットにして、そのあと東信に、というのはありうると思う。ただ、北信や南信については、山梨となかなか結びつかない。まず長野県の中の諏訪地方、それが終わったら上田地方、この辺りは山梨なら一体ですよということ。これがそのまま静岡方面までつながれば、武田の勢力圏にほぼ匹敵する。
- ・絹について言えば、八王子に八高線で高崎から群馬の絹を集めて、八王子に山梨からの絹を集めて、それを今の横浜線で横浜へ出して、財を成している。山梨の出身者が、群馬に養子に行ったりという動きもある。
- ・いろいろな近隣との提携については、歴史をひもとけば、絶対できる話で、縄文がまず最初だったら、縄文で諏訪、それから蓼科、八ヶ岳、このエリアで、縄文をアーティスティックにしっかりとまとめてみる。そのあと、明治はどうだったのか、大きな明治維新としてはどうだったのかというような形で、徐々に広げていく。一つの中核ができれば、その周りのことに広げていけると思っていて、まさに一つのアイデアとして、面白いと思うし、やる価値はあると思う。

中村CEO

- ・もう一つは、私は結構京都のアートや工芸の人々と交流しているが、京都の人たちは、京都自体に壮大な山岳、つまり大自然がないので、非常に八ヶ岳が大好き。
- ・武田信玄は京都に憧れて、ものすごい交流がある。
- ・要するに、外国人は、京都は絶対見てみたいと思うが、外で出すときに京都から今度は山梨に連れてくるということ。

東座長

- ・それはいい。

中村CEO

- ・将来リニアがあったら、非常にスムーズにいく。清水委員が詳しいかもしれないが、京都から工芸の関係の人を連れてきたようなこともあると思うし、京都の人を山梨へ連れてくれば、ものすごく喜ぶ。

東座長

- ・昨日、たまたま京都の副知事と話をしたが、京都もテクノロジーとアートを使ってどうやってまちづくりしていくかというところはかなりシフトしてきていて、そういう意味では、関係性は作れると思う。太秦に関しても、これからアップデートしていかなくちゃいけないという話もある。

中村CEO

- ・京都はいい。車で来ても近い。京都の人たちは、東京まで出向くより小淵沢のような自然の中で東京の経済人と交流することを好んでいる。

東座長

- ・京都山梨はいい。

中村CEO

- ・絶対来る。気が付いていないけれど、印伝もそうだと思う。工芸品については、京都には、本当に職人がたくさんいる。これは絶対いい。ルートとして、海外のインバウンドの富裕層を出すには絶対いいルート。

東座長

- ・絶対いい。

中村CEO

- ・絶対いいルート。例えば、私が今計画しているのは、子供たちのサマーキャンプも一遍小淵沢に入れて、最後は京都に行って、1週間、京都の文化を見させるプログラムにするのがいいと思っている。

長崎知事

- ・同感。

東座長

- ・太秦では、ハリウッ드의技術をすぐに入れていて、映像技術も、おそらく日本で一番優れているところが多い。

中村CEO

- ・更に、京都五山と山梨五山があって、寺院という視点でも、とても馴染む。
- ・京都は室町まであったけれど、戦国はなくて、戦国は我がチーム。

清水委員

- ・ 京都五山から鎌倉五山、そして甲府五山という流れが確かにある。
- ・ 太秦については、いくらでも東映に話にいける。

中村CEO

- ・ 清水寺の関係者を呼んだりしているが、すごく喜んでいる。京都アートフェアが来年予定されていて、清水寺でも大きいことをやろうとしているが、我々も支援している。コロナの抗体検査等を寄付して、アーティストに渡している。

清水委員

- ・ 我々も、仁和寺と東寺を借り切って、イベントをやったりしている

中村CEO

- ・ お寺という観点からしても、ものすごく馴染むと思う。
- ・ 浜松もいいと思うし、名古屋もいい。京都と考えると、名古屋が入ってくる。
- ・ クルーズ船での静岡ルートというのもあると思うが、もう一つは、京都からは4時間ぐらいで来れるし、山梨は眺めがいいから、ある面では京都のルートを作っていくというのはすごくいい。京都の知事も望んでいるのではないか。

東座長

- ・ 同感。

中村CEO

- ・ 更には、ニセコ町と北杜市は、連携を結んだ方がよいと思っている。お互い時期が違って、夏は北杜市になる。ニセコ町は非常に国際化していて、その流れが北杜市にも来てくればいい。

長崎知事

- ・ 同感。

清水委員

- ・ 時期だけではなくて、世代層の問題も考えなきゃいけない。
- ・ ヨーロッパはそうでもないが、中国から人を呼ぶ場合に、お金を出すのは祖父母。
- ・ サマーキャンプに子供たちが行くなれば、両親だけでなく、実際にお金を出す祖父母も来る。祖父母は京都に長くいてもらって、若い親は、ニセコでスキーというような形で、世代層で分けるというのも一つのアイディアとしてありうる。

- ・実は福岡で麻生グループと組んでやったのが、大正解だった。祖父母は病院で検査を受けて、両親は東京へ買い物に行き、子供たちはニセコでスキーをするというような形でツアーを組んだら、ものすごくうまくいった。
- ・世代層ごとのターゲットが違うということを考える必要がある。実際にお金を出すのは祖父母であって、正直言って、孫が喜んでくれるんだったら、出してくれる。
- ・我々が、東武にお願いして、スカイツリーの下の水族館を借り切って、富裕層にパーティーを開いて、お孫さんをどうぞって言ったら、ものすごく良かった。お孫さんに見れば、並んで見なきゃいけないものが、自分で独占して見える。

中村CEO

- ・最後に、アートということで考えると、クリエイターズキャンプやキッズサマーキャンプが絶対にいい。やはり、親が来るし、お金も落とす。山梨だけではなくて、出口というのが大事で、例えば京都で出すとか、そういう形を考える必要がある。
- ・もう一つは、お願いごとにもなるが、大使館の方を1回ステイさせるということ。これには資金が必要で、私が自分たちだけでやっても、本当にお金がないのがつらいところ。大使館の婦人たちを1回ステイさせて、経験させると、そういった方のロコミは相当影響力があるので、それが大事。大使館は安全安心だと思えば、自分たちの上役が来たときに、連れてくる。ぜひ、まずは切り口として小さいところからやって欲しい。

長崎知事

- ・それはぜひ、やりたいので、ご相談させていただきたい。

東座長

- ・ぜひこれを具体的に進めていく形で、徐々に枠組みを広げていけばいいかなと思うし、ぜひ来年度に向けて進めていければと思う。

以上